

ディッピング剤としての梅酢の利用方法

近年、乳牛の泌乳能力向上に伴い、乳房炎等を原因とした供用年数の短縮が問題となっています。本研究では梅干の副産物である梅酢の利用方法を検証しました。

1 泌乳期における梅酢の乳房炎予防効果

梅酢は希釈すると殺菌効果が劣るため原液で使用しました。搾乳牛8頭を用い、牛1頭に対して市販のヨード系ディッピング剤（ヨード区）もしくは梅酢（梅酢区）を2分房ずつ搾乳後ディッピングしました。乳汁中の体細胞スコア※の推移を調べた結果、両区で大きな差はなく（図）、ディッピング剤として梅酢を利用可能と考えました。

※ 体細胞スコア…体細胞数を対数変換し、0~9にスコア化

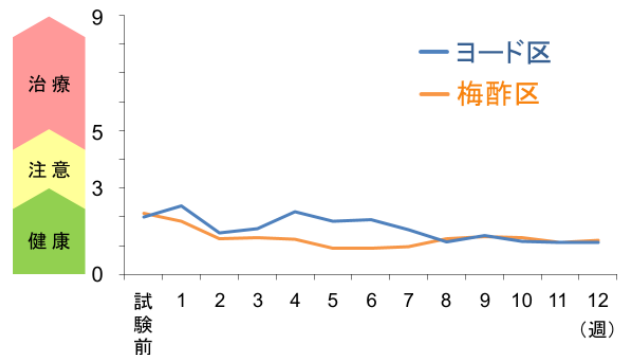


図 体細胞スコアの推移

2 コスト試算

梅酢は基本無料と考えられますが、梅干の製造は嶺南地方に集中しており、嶺北の酪農家が利用する場合、輸送コストがかかることが想定されます。1日2回搾乳し、30頭の飼養規模で梅酢を利用した場合、年間約15万円のコスト削減が見込まれます（表）。

表 コスト比較

	市販ディッピング剤	梅酢
製品価格 (円/25kg)	10,800	0
運送費 (円/回)	0	2,270
計	10,800	2,270
年間支出※ (円/450kg)	194,400	40,860
市販ディッピング剤との差額		153,540

※ 搾乳牛30頭、1日2回搾乳の場合

3 技術利用の留意点

梅酢ディッピングによる一般乳成分や乳頭皮膚に大きな影響はみられませんでした。梅酢は生産される時期が集中するため、直射日光を避けた涼しい保管場所の確保が必要です。



(畜試 家畜研究部 酪農研究G)